

愛知県岡崎市は「石都岡崎」と呼ばれているように、石製品工業では日本三大産地の一つと評されている。日本三大産地の他の地域は、香川県の庵治町、茨城県の真壁町がそれにあたる。それぞれの産地に違いはあるが、石製品という同じ分野で競っている。

地域によってそれぞれの違いがあり、岡崎は他地域よりも灯籠という石製品において秀でていた。灯籠は石製品の中でもそのほとんどを手作業で製作するものであり、高い技術を有していなければ製作することができない石製品である。そのため、岡崎は技術水準の高さを誇っており、今日でも全国の各産地から石屋の後継者が技術習得の目的で全国唯一の石工技術が学べる学校である岡崎技術工学院に入学している。このように、他地域より秀でるものがあり、発展することができたのである。

しかし、時代が経つにつれバブル経済の崩壊などによって経済状況も悪化し、また洋風の住宅が増えるなどといった文化なども変化していき、石製品業界は不利な状況におちいついていった。だが、そのような状況になっても岡崎の石製品工業地域は存続していくために新たな変容を生み出した。それは、石製品業者自体の変化と新たな業者の出現である。業者自体が労働力の変化、経営形態の変化、製造品目の変化といったように時代が経つにつれて変化している。また、国内産の高価な石製品よりも、より安価な外国産の石製品の需要が高くなったことに目を付け、外国産の石製品を輸入し販売する輸入業者が現れた。このように、経済状況が悪くなってもその時のニーズに合わせた経営をするような業者もあり、岡崎の石製品工業地域は今日も存続し続けていることが明らかとなった。